

ピンチは自分を成長させてくれる機会だと思います。それが「ピンチはチャンス」と言われる理由だと思います。

私は中学時代、吹奏楽部に所属していました。2年生の時のことです。アンサンブルコンテストの県大会に出場するチームを部内の選考会で決めることになりました。私たちのチームは他のチームに比べてリズムや音質でまともりがなく、絶体絶命のピンチでした。そこで、私たちはお互いの悪いところを言い合ったり、自主練習を繰り返しました。その結果、県大会に出場するチームに選ばれました。

私はこの時、ピンチをチャンスに変えることができた実感しました。この時の経験は今でも私を支えてくれています。また、この経験は私に積極性を与えてくれたように思います。何かにチャレンジすると、新しい自分を発見できると思うようになりました。このように、いま振り返ると、この経験は私を成長させてくれたのだと思います。

まず、ピンチをチャンスだと思うことだと思います。ピンチになると、人は「もうダメだ」と考えがちです。しかし、そのピンチの内容を分析し、必要なことを洗い出していくと、挽回の要素が見えてきます。具体的にやるべきことがわかれば、それは「災い転じて福となす」のことわざ通り、チャンスに変えられると思います。

高校の3年間には、テストの結果が悪いとか友人関係で摩擦が生じたとか、辛いことや苦しいことがあると思います。しかし、そこで落ち込まず、自分を見つめ、自分には何が必要なか、何をすべきなのかを考え、乗り越えていきたいです。また、困難を克服するには一人では難しいときがあると思います。私は高校で何でも相談できる友だちを作りたいです。そして、友だちを大切にしたいです。このこともピンチをチャンスに変えるために必要なことだと思います。